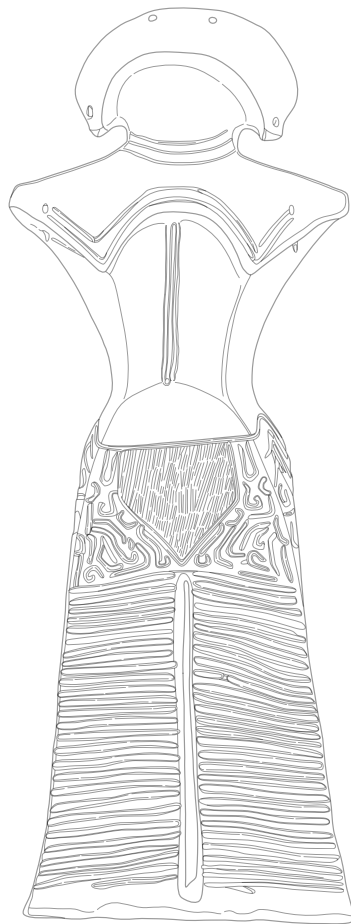


年 報

令和5年度

令和6年5月

公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター



序

山形県埋蔵文化財センターは、平成5年に財団法人として創設以来、また平成24年からは公益財団法人として、関係諸機関のご支援・ご協力をいただきながら取組みを進め、30周年をむかえました。本年度における当センターの事業につきましては、計画した事業の全てについて円滑に実施することができました。その概要について申し上げますと、調査事業においては、5遺跡6件の発掘調査と延べ7遺跡の報告書作成のための整理作業を実施し、1件の発掘調査報告書を刊行いたしました。本県における近年の発掘調査は、県内の高速交通網整備に伴う事業もピークを過ぎたことから、減少傾向にあります。これからの県の公共事業等の事業量を的確に把握しつつ、調査体制の整備に努めていかなければなりません。今後とも、責任ある発掘調査を基本とした調査研究に取り組んでまいります。

普及啓発事業につきましては、山形県の委託を受け、『出前授業』や『市町村巡回展示』『発掘作業体験』『遺跡体感ツアー』などの事業を実施してまいりました。一昨年度から続く新型コロナウイルス感染が終息しない中ではありましたが、感染防止対策を充分に行い、多くの県民からご参加をいただきました。また、SNSやホームページによる情報発信、発掘調査遺跡の調査成果一般公開などを通して、埋蔵文化財の調査研究の成果を県民の皆様にお知らせしてまいりました。今後とも埋蔵文化財保護の重要性の周知や、埋蔵文化財を通して古代の人との心の交流の場を県民の皆さんに提供するという基本姿勢を以て、普及啓発事業を推進してまいります。

山形県埋蔵文化財センターでは、これからも「公益」という言葉の重みを職員一人ひとりが胸に刻み、次世代を担う子供達に地域の伝統文化の大切さを伝えるため、あるいは誇りと自信の持てる地域づくりの一助とするため、さまざまな機会を活用して、県民共有の文化遺産としての価値ある埋蔵文化財を後世に伝えていけるよう、職員一同、一層研鑽を重ねていく所存であります。

令和6年3月31日

公益財団法人山形県埋蔵文化財センター
理事長 大泉定幸

目次

I. 管理運営概要

1. 沿革	1
2. 組織	
(1) 役員及び評議員	1
(2) 職制及び人員	2
(3) 組織	2
(4) 職員	3
3. 施設	4

II. 業務概要

1. 調査業務	5
(1) 調査遺跡一覧	6
(2) 調査遺跡の概要	
鶴子中原遺跡	7
山形城三の丸跡 第24次	10
北向遺跡 第4次	12
中洗2遺跡	14
新庄城二の丸跡	16
中野目II遺跡	20
水林下遺跡	21
鶴ヶ岡城跡 第3次	22
鶴ヶ岡城跡 第4次	23
2. 普及啓発・研究等業	
(1) 受託事業	
① 出前授業	24
② 発掘調査速報会	24
③ 遺跡・史跡パンフレット	25
④ 市町村巡回展示会	25
⑤ 体験学習会	25
⑥ 遺跡体感ツアー	26
⑦ SNS 情報	26
⑧ 出土品貸出等	26
(2) その他	
① 調査説明会・調査成果一般公開	28
② 来所者	29
③ 職員派遣等	30
④ 啓蒙物品等貸出	32
⑤ 出版物	32
⑥ ホームページ	32
(3) 研修等	33
(4) 情報処理	33

I 管理運営概要

1. 沿革

山形県には、土地に埋蔵された埋蔵文化財や史跡、有形文化財、民俗文化財などが数多く残されています。これらの文化財は、長い歴史の中で生まれ、育まれ、そして今日まで守り伝えられてきた貴重な県民の文化遺産であり、これを保護・活用し、次世代に確実に継承していくことが大切です。

山形県埋蔵文化財センターは、埋蔵文化財の保護と県土の開発を両立させて調和を図るため、平成5年4月に山形県の出資によって「財団法人」として設立され、平成24年度には「公益財団法人」に移行しました。当センターでは、埋蔵文化財の調査研究を通じて、県民の文化生活の向上と地域文化の振興に寄与することを目的として、

1. 県内遺跡等埋蔵文化財の調査研究
2. 埋蔵文化財の発掘調査
3. 埋蔵文化財の活用と保護思想の普及

の三つを基本とした各種事業を推進しております。

令和4年3月に『山形県文化財活用大綱』が策定され、その中で当センターは推進体制の関係団体となっています。センターは、埋蔵文化財保護と活用の役割を担い、山形県と連携し進める必要があります。

当センターでは山形県からの委託を受け、埋蔵文化財の教育的価値を認識してもらう視点に立って、「出前授業」、「市町村巡回展示」、「発掘調査速報会」、「ホームページとSNSによる情報発信」、「体験学習会」、「遺跡体感ツーリズム」の実施などの普及啓発活動にも力を注いでおります。

2. 組織

(1) 役員及び評議員

役員

理事長	大泉定幸	山形県観光文化スポーツ部長
専務理事	菅原靖男	財団常勤役員
理事	石川由美	一般社団法人山形県医師会事務局長
理事	江袋一宏	公益財団法人山形県生涯学習文化財団専務理事
理事	大澤修一	山形県観光文化スポーツ部博物館・文化財活用課長
理事	渋谷孝雄	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館長
監事	棚野哲郎	元棚野哲郎税理士事務所所長
監事	藤岡俊祐	山形県観光文化スポーツ部観光復活推進課長

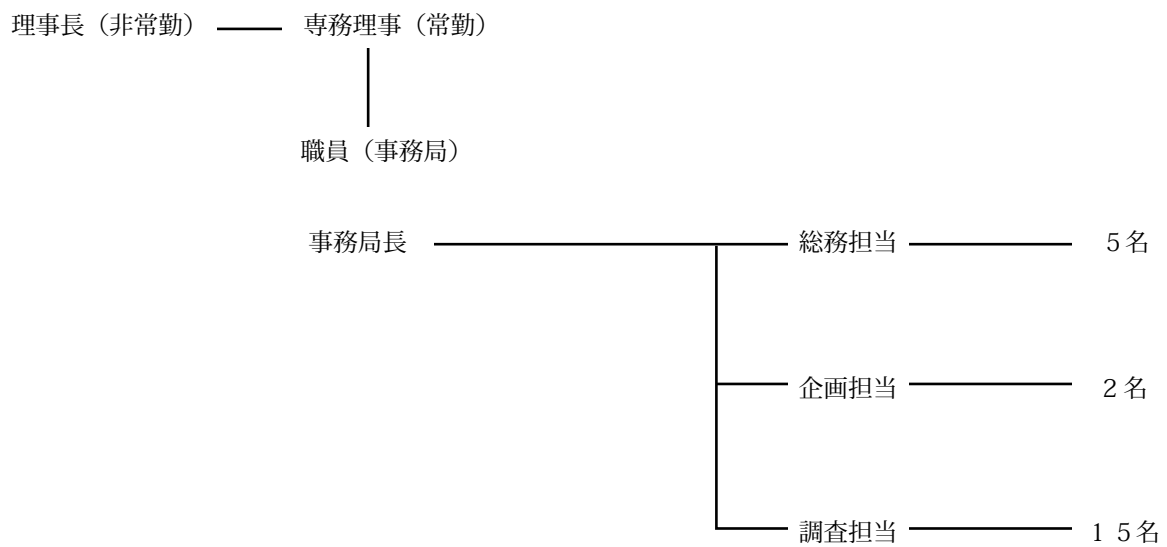
評議員	安達邦明	山形県農林水産部農村整備課長
評議員	阿部好弘	山形県立米沢東高等学校長
評議員	遠藤友紀	公益財団法人米沢上杉文化振興財団主任学芸員
評議員	大類 誠	尾花沢市文化財保護審議員
評議員	佐藤庄一	前山形考古学会会長
評議員	佐藤仁喜弥	特別法人山形県住宅供給公社専務理事
評議員	平山直人	山形県県土整備部道路整備課長
評議員	本間 豊	公益財団法人致道博物館理事（兼）学芸部長
評議員	三澤裕之	秀明大学教育研究所教授

(2) 職制及び人員

事務局長	1名
調整専門員	1名
調査研究専門員	3名
総務主査	1名
主任調査研究員	4名
主任主査	3名
事務主査	1名
企画主任	1名
事務員	4名
調査員	4名
計	23名

(3) 組織

役員（理事会）



(4) 職員

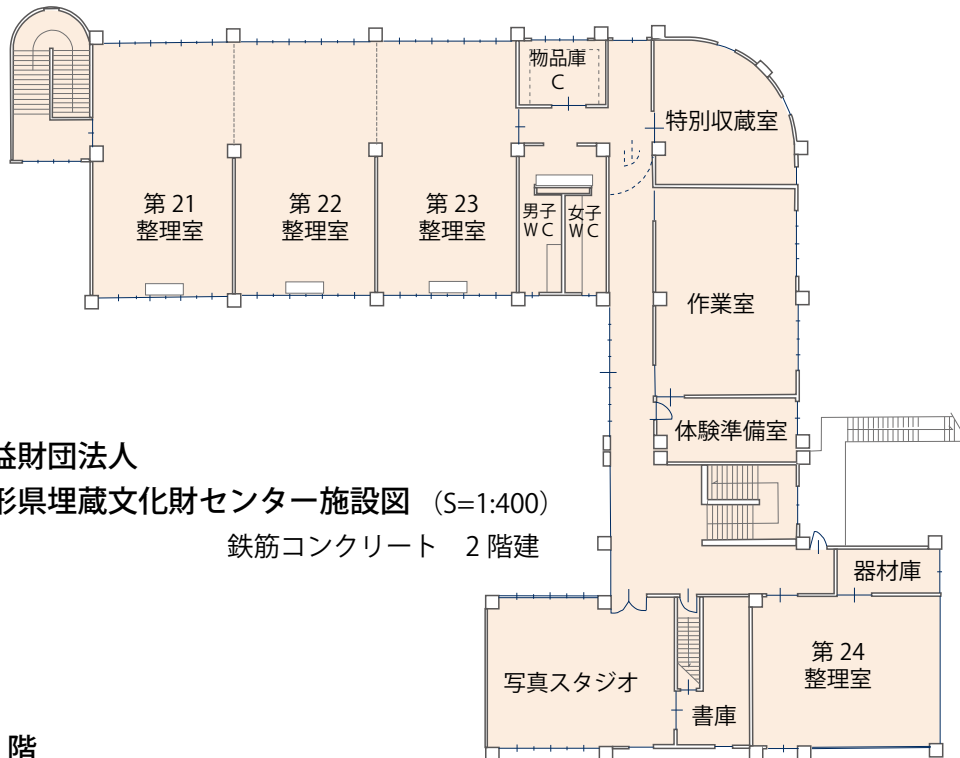
	職名	氏名	
	事務局長	高桑弘美	一般職員
総務担当	総務主査	水戸部秀樹	一般職員
	事務主任	石澤治雄	任期付職員
	事務員	梅津里枝	任期付職員
	事務員	柳原 恵	任期付職員
	事務員	熊谷夏恋	任期付職員 (3月1日採用)
企画担当	企画主任	須賀井新人	任期付職員
	事務員	後藤枝里子	任期付職員
調査担当	調整専門員	高桑 登	一般職員
	調査研究専門員	植松暁彦	一般職員
	調査研究専門員	齋藤 健	一般職員
	調査研究専門員	菅原哲文	一般職員
	主任調査研究員	大場正善	一般職員
	主任調査研究員	草野潤平	一般職員
	主任調査研究員	天本昌希	一般職員
	主任調査研究員	渡辺和行	一般職員
	主任主査	齊藤主税	一般職員
	主任主査	氏家信行	一般職員
	主任主査	小林圭一	一般職員
	調査員	志鎌久悦	任期付職員
	調査員	渡邊咲良	任期付職員
	調査員	大村暖奈	任期付職員
	調査員	小幡桃花	任期付職員

3. 施設

公益財団法人山形県埋蔵文化財センターは、平成24年11月末まで、山形県上市市弁天二丁目15番1号にて業務を行ってきましたが、施設の老朽化と防災上の問題のため、同年12月1日より、山形県上市市中山字壁屋敷5608番地に移転しました。

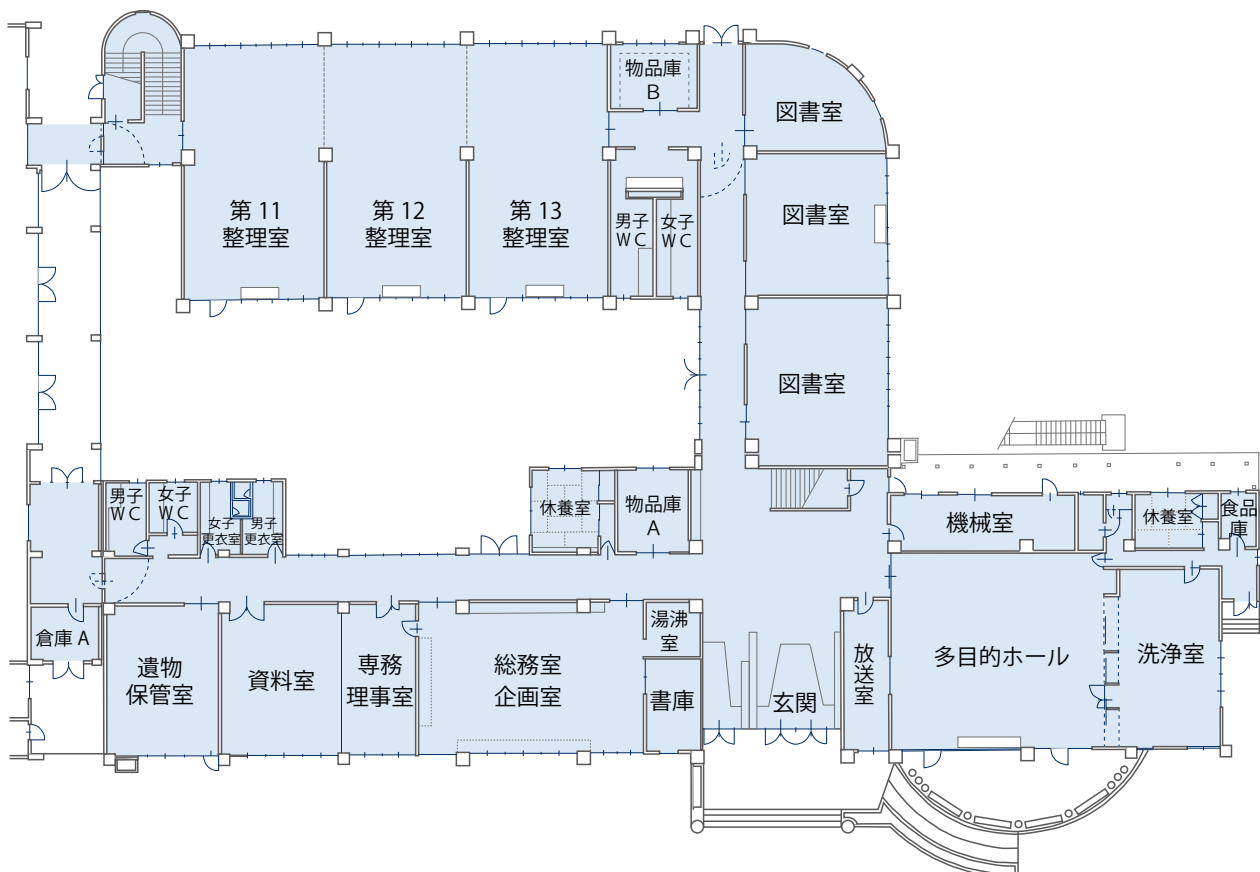
現在当所の施設は、以下の通りになります。

2階



公益財団法人
山形県埋蔵文化財センター施設図 (S=1:400)
鉄筋コンクリート 2階建

1階



II 事業概要

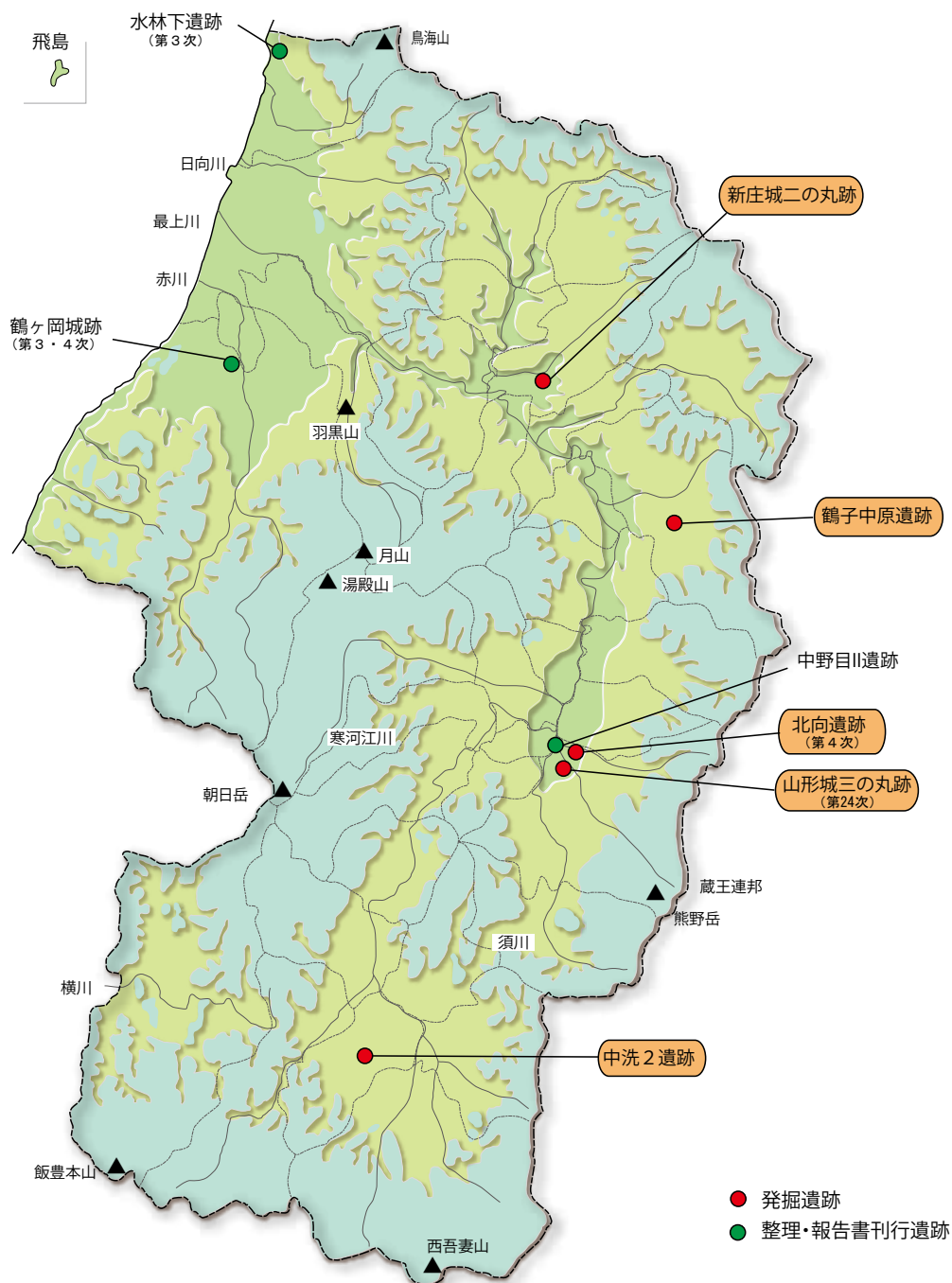
1. 調査業務

令和5年度は、国土交通省および山形県、新庄市から委託を受け、道路建設、農地整備事業等に先だつての現地調査と整理作業、報告書刊行を実施しました。

発掘調査は5遺跡について行い、総面積は6,020㎡になります。出土品は、土器等〇〇箱が出土文化財の認定を受けました。

報告書作成のための整理作業は延べ4遺跡について実施し、その内1遺跡1冊の発掘調査報告書を刊行しました

令和5年度 発掘調査遺跡



※本書中の「調査遺跡の概要」の記述内容は概要の報告であり、発掘調査報告書の刊行をもって本報告となります。

(1) 調査遺跡一覧

No.	遺跡名	所在地	主な時代	遺跡の種類	調査期間
1	<small>つるこなかはら</small> 鶴子中原遺跡	尾花沢市	縄文	集落跡	10月3日～11月21日
2	<small>やまがたじょうさんのまる</small> 山形城三の丸跡 (第24次)	山形市	奈良・平安 中世・近世	集落跡 城館跡	6月6日～10月6日
3	<small>きたむかえ</small> 北向遺跡 (第4次)	山形市	縄文・古墳 奈良・平安・中世	集落跡	4月12日～8月8日
4	<small>なかあらい</small> 中洗2遺跡	川西町	古墳・奈良・平安	集落跡	6月1日～9月22日
5	<small>しんじょうじょうにのまる</small> 新庄城二の丸跡	新庄市	近世	城館跡	5月15日～11月14日
6	<small>なかのめ</small> 中野目Ⅱ遺跡	山形市	古墳・奈良 平安・近世	集落跡	
7	<small>みずばやしした</small> 水林下遺跡 (第1～3次)	遊佐町	旧石器・縄文 奈良・平安 中世・近世	集落跡	
8	<small>つるがおかじょう</small> 鶴ヶ岡城跡 (第3次)	鶴岡市	近世	城館跡	
9	<small>つるがおかじょう</small> 鶴ヶ岡城跡 (第4次)	鶴岡市	近世	城館跡	

調査面積 ：平方 m	文化財認定 箱数：箱	起因事業〈委託者〉	業務内容			調査経費：円
			発掘	整理	報告書	
190	15	農地整備事業（経営体育成型） 鶴子六沢地区 〈山形県観光文化スポーツ部〉	○	○	—	26,520,000
550	31	山形広域都市計画道路事業 3・2・5号旅籠町八日町線 〈村山総合支庁建設部〉	○	○	—	51,664,800
1,380	25	交通安全道路事業 一般県道東山七浦線 〈村山総合支庁建設部〉	○	○	—	49,984,000
2,100	30	道路改築事業国道 287 号 米沢川西バイパス 〈置賜総合支庁建設部〉	○	○	—	56,787,500
1,800	390	新庄市公立保育所整備 〈新庄市〉	○	○	—	61,008,200
		最上川上流河川改修事業 （須川地区） 〈国土交通省〉	—	○	—	21,794,300
		一般国道 7 号遊佐象潟道路 〈国土交通省〉	—	○	—	27,759,000
		山形県立庄内中高一貫校（仮称） 整備事業 〈山形県教育局〉	—	○	○	7,749,500
		街路整備事業（防災・安全交付金） 〈庄内総合支庁建設部〉	—	○	—	40,684,500
6,020	410					343,961,800

鶴子中原遺跡

遺跡番号	212-024
調査回数	第1次
所在地	山形県尾花沢市鶴子字原の内内地内
北緯・東経	37度56分40秒・140度49分11秒
調査委託者	山形県観光文化スポーツ部博物館・文化財活用課
起回事業	農地整備事業（経営体育成型）鶴子六沢地区
調査面積	190㎡
受託期間	令和5年9月1日～令和6年3月31日
現地調査	令和5年10月3日～11月21日
調査担当者	植松暁彦（現場責任者）・氏家信行
調査協力	村山総合支庁産業経済部北村山農村整備課、鶴子六沢土地改良区、尾花沢市教育委員会
遺跡種別	集落跡
時代	縄文時代
遺構	土坑・柱穴・風倒木痕
遺物	縄文土器・石器（文化財認定箱数：15箱）



遺跡位置図（S = 1:50,000）

調査の概要

鶴子中原遺跡は、尾花沢市街地から南東約8kmの鶴子地区に位置し、丹生川左岸の河岸段丘上に立地する。

今回の調査は、農地整備事業の用排水路工事に伴い、昨年度調査された原の内A遺跡第4次調査（縄文時代中期。約5,000年前）の北側にあたる。

遺構では、調査区東側を主に、直径1m前後の貯蔵穴やゴミ捨て穴と考えられる土坑11基、柱穴等と考えられる多数の小ピットが確認され、他に直径・深さ共に約

1.5mの大型の風倒木痕が発見された。

遺物は、これら遺構内から県内では数少ない縄文時代早期中葉～後葉（約8,000～7,000年前）の貝殻を使用し文様を描く所謂「貝殻文系土器」群が出土した。特に風倒木痕からは、貝殻の腹縁を押しあて鋸歯状や矢羽根状の文様を施す古相の「貝殻沈線文土器」、貝殻の腹縁を押し引いた新相の「貝殻条痕文系土器」が出土し、継続的な集落の形成がうかがえた。

石器では、狩猟具の石鏃や加工用ナイフの石篋、木の伐採などに使用された磨製石斧、石器の一辺に連続的な加工を施す削器、皮なめし具とされる搔器などが出土した。また、これらを製作する際の破片（剥片）やその素材（石核）も出土し、集落での活動の一端が知れる。そして、特に石器では、堅果類の粉碎具とされる凹石（くぼみいし）が20点以上と多く出土し、当時の集落周辺の活発な森林活用がうかがわれる。

一方、調査では、包含層や地山に、集落と同じ縄文時代早期（約1万年前）に単発的に塊で降下した大蔵村の肘折火山噴出物「肘折パミス（軽石）」などが確認された。今回の調査は、当時の自然災害規模や遺跡立地、周辺環境の復元も検討できる貴重な資料も得られた。

山形城三の丸跡第 24 次

遺跡番号 201-003
調査回数 第24次
所在地 山形県山形市本町1丁目外
北緯・東経 38度15分2秒・140度20分6秒
調査委託者 山形県村山総合支庁建設部都市計画課
起因事業 山形広域都市計画道路事業3・2・5号旅籠町八日町線
調査面積 550㎡
受託期間 令和5年4月1日～令和6年3月31日
現地調査 令和5年6月6日～10月6日
調査担当者 渡辺和行（現場責任者）・大村暖奈・小林圭一
調査協力 山形市企画調整部文化振興課
遺跡種別 集落跡・城館跡
時代 奈良・平安時代、中世、近世
遺構 掘立柱建物・土坑・溝・石組み遺構・柱穴
遺物 土師器・須恵器・陶磁器・金属製品（文化財認定箱数：31箱）



遺跡位置図 (S = 1:50,000)

調査の概要

今回の調査は、山形広域都市計画道路事業3・2・5号旅籠町八日町線における昨年に続いての調査である。また、山形城三の丸跡においては当センターで行う24回目の調査となっている。

一昨年と昨年度の22・23次調査で、1～8の調査区を設定している。今年度は新規に9～11区までを設定し、7区の北側が未調査であったため併せて調査を行った。昨年度までの調査概要を以下に記す。北側に位置する1区・2区北側・8区から、近世前半の陶磁器類が出

土している。この区域では明確な古代の遺構は検出されおらず遺物も数点である。事業区内で中央に位置する2区の南・3・5・6区では、近世後半の遺物や遺構が検出されている。石組みの井戸や水場と考えられる石組み遺構などが検出されている。遺物では堀田氏時代の赤瓦や陶磁器などが出土している。また、奈良・平安時代の竪穴建物も見つかっており、特に2区では、8m四方もある大型の竪穴建物が見つかっている。当時の一般的な建物の大きさが約4m四方であることを考えると大きさが際立っている。南側に位置する4区・7区の南側では古代の遺構が目立つ。4区では2区で検出した大型竪穴建物と同様の規模の竪穴建物が検出されている。7区の南側では約4m四方の竪穴建物が2棟検出されている。時期はいずれも8世紀末～9世紀初頭に属するとみられる。

遺構と遺物

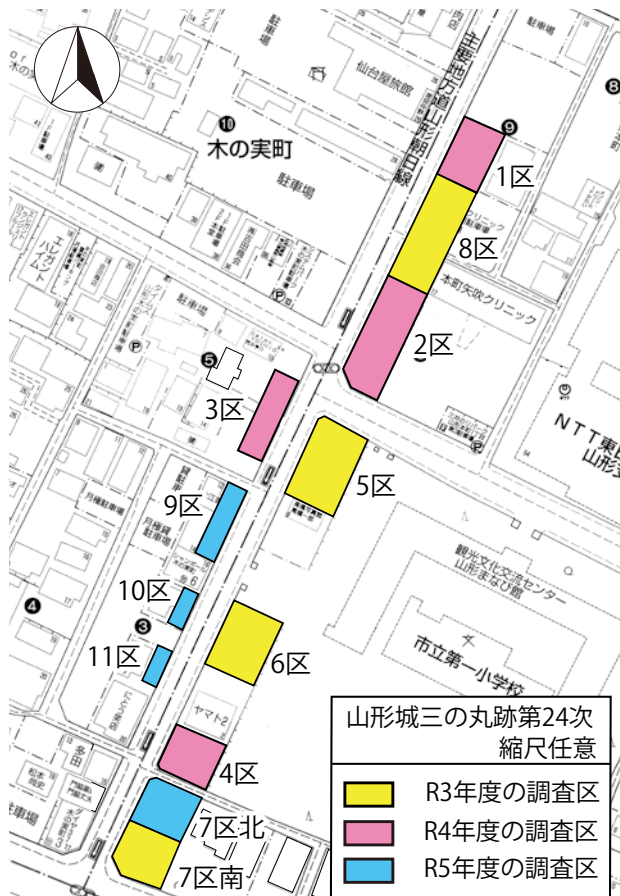
今年度の調査結果も基本的には昨年度までと同様である。但し、9～11区では近世に属する遺構・遺物は確認出来たが古代に属するものは確認出来ていない。9区では大型の土坑と南北に続く溝が確認された。大型の土坑からは「かわらけ」や近世前半に属する陶磁器が出土

している。土坑の周りから柱穴が検出されており、屋根が掛けられていたと考えられる。南北方向の幅は約2.2m。検出面からの深さは深いところで1.1m、浅いところで約80cmを測り、2段構造となっている。溝は幅約1m、検出面からの深さ約80cmを測る。溝は南東側の4・7区に繋がっていることが確認された。遺物は少なく詳細な時期は今後の検討課題である。

10・11区ではピットや土坑が検出されたが調査区が狭いこともあり、全容が明確になるものはなかった。

7区の北側では近世の遺構として、9区から延びる溝跡、石組み遺構、大型の土坑が確認されている。石組み遺構は、調査区の西側に位置し、3～4段程度の石組みが確認された。大型の土坑は形が不定形で範囲が5m以上、深さ80cm程の遺構である。遺物は「かわらけ」が多く出土している。ほとんどが口縁部に煤が付着した状態であったことから灯かりをともし^{こえんぶ}燈明皿^{すす}として使用されたと考えられる。また、江戸時代初期に焼かれた九州地方の焼き物も出土している。

5・7・9区で検出された近世前半に使用されたと考えられる大型土坑や石組み井戸も含めた構築に時間の掛か



第1図 山形城三の丸第24次調査区概要図

る遺構を考えると、遺構が構築されたとみられる中世末期に大規模な開発が想定できる。恐らく三の丸の拡張に伴うものと予想される。

奈良・平安時代ではピットや溝、掘立柱建物が検出された。掘立柱建物は2間×1間以上の規模の側柱建物^{がわぼしら}である。建物は調査区外に延びている。この建物は昨年検出した竪穴建物と向きが揃っており、同時期の建物と考えることができる。その他、珍しい遺物として取っ手がついた須恵器の鉢が出土している。また、黒色包含層から縄文時代後期前半期の粗製深鉢が出土している。



写真1 9区:大型土坑 SK613



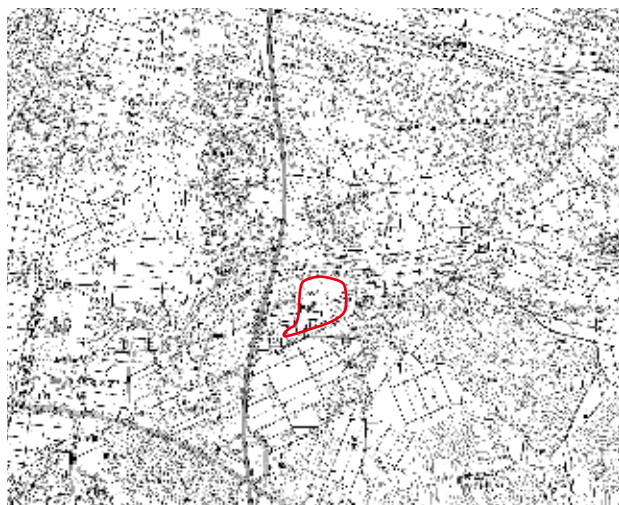
写真2 7区北:性格不明遺構 SX720 出土遺物



写真3 黒色層出土:縄文土器(縄文時代後期前半)

きたむかえ
北向遺跡

遺跡番号 201-323
調査回数 第4次
所在地 山形県山形市大字青柳字壺本木地内
北緯・東経 38度17分59秒・140度21分51秒
調査委託者 村山総合支庁建設部道路課
起因事業 交通安全道路事業 一般県道東山七浦線
調査面積 1,380㎡
受託期間 令和5年4月1日～令和6年3月31日
現地調査 令和5年4月12日～8月8日
調査担当者 天本昌希（現場責任者）・渡辺咲良・斉藤主税
調査協力 山形市教育委員会・一本木土地改良区
遺跡種別 集落跡
時代 縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世
遺構 竪穴建物、掘立柱建物、土坑跡、河川跡
遺物 縄文土器・土師器・須恵器（文化財認定箱数：25箱）



遺跡位置図（S = 1:50,000）

調査の概要

北向遺跡は、山形市の北東部の楯山地区に位置する奈良・平安時代を中心とする集落遺跡である。本遺跡範囲南端部を横断する県道東山七浦線の建設に伴う調査が続いており、今年度は昨年度実施した第3次調査の西側延伸先を、第4次調査として実施した。なお、第1次・2次調査は、2003年と2005年に実施している。そのほかにも、本事業の道路に接続する市道部分を山形市教育委員会が2005年に調査している。

これまでの調査では、奈良・平安時代を中心に多くの

竪穴建物が検出されているが、第3次調査区には大きな河川が流れており、竪穴建物は展開していないことがわかっている。この河川は第3次調査区の西端で大きく蛇行し、調査区を外れる。今回の第4次調査区は、第3次調査区の西側に隣接し、途中調査不要と判断された地区を挟んで更に西側へ続き、合計面積1,380㎡を調査した。第3次調査区を覆っていた河川から外れるため、前回とは異なる遺構や遺物の出土が予想された。

調査の結果、これまでの調査ではほとんどみられなかった縄文時代と古墳時代の遺物がある程度まとまって出土している。前者は大洞A式期を中心とした縄文時代晩期末のもので、ほぼ完形の小型深鉢などが出土している。明確な遺構から出土したものではないが、本遺跡周辺の山形市北柳1遺跡や、天童市の砂子田遺跡と類似する時期のものであり、この時期の積極的な低地への進出を示す資料といえるだろう。

後者は古墳時代中期のもので、こちらも遺構に伴うものではないが、土師器の坏や甕などが出土している。ほか特筆すべきは須恵器の無蓋高坏で、口縁を一部欠くのみ良好な遺存状態の資料である。体部の腰の片側に把手がつき、脚には長方形の透かしが3か所入る。脚は短

く、中期後半の様相を示している。なお、この付近からは石製模造品の有孔円盤も出土した。

今回の調査で中心となるのは、奈良・平安時代のもので、竪穴建物が5棟検出している。重複もみられるため、総数はさらに多くなるだろう。付属するカマドは、明確なもので2基確認できるが、いずれも長煙道のものではない。出土品に関しては今後の整理作業を待たねばならないが、土師器・須恵器の坏や甕が主なもので、8世紀後半～9世紀後半に収まる。ほか掘立柱建物や土坑、ピットも同時期のものと考えられ、これは第1次調査以降、検出している竪穴建物などの年代観と同じである。よって同じ集落が今回の調査区まで展開していると推測できる。ただし、分布密度から集落の中心は、北東側に求められよう。集落全体では、第3次調査で検出した河川跡の北側と、現在の村山高瀬川の南側に挟まれた土地に展開する集落景観が復元できるだろう。

中世の遺構は、それ以前の遺構確認面より上位で検出されるため、洪水で地表が嵩上げされた結果と考えられる。火葬墓や壁際に柱穴をもつ土坑などがあり、火葬墓は遺存状態の極めて良いもので、壁面がよく焼けて赤色

硬化しており、明瞭な検出状況であった。隅丸長方形の長軸壁面の一部が両側とも焚口状に外へ飛び出る形状を呈している。覆土中には炭層があり、その下から人骨片が出土する。焼骨のため正確な判断は難しいが、確認できる限りでは成人1個体分のものである。

まとめ

今回の調査区からは、奈良・平安時代の集落の広がりが明らかになるとともに、周辺に縄文時代や古墳時代の集落の展開を予想させるものとなった。特に古墳時代のものは、付近に風間B古墳、間所免古墳の存在が知られているため、関連性もうかがわせる。縄文時代や古墳時代の遺構がなく遺物だけが単独で出土するのは、調査区の堆積状況から、河川の氾濫による流れ込みと考えられる。調査区周辺の扇状地末端部は、多くの河川が複雑に流路を変え、周辺の地形をつくってきたことがわかる。古代には河川の間集落が広がり、中世に入ると河川が埋没しはじめ、現在に近い地形になってからは、墓域として利用されたことが明らかになった。このように本遺跡の調査は、複雑な扇状地地形の形成と、その土地利用を歴史的に解明できる重要な手がかりとなるだろう。



写真1 重機稼働、遺構検出状況



写真2 遺構検出状況



写真3 基本土層精査状況



写真4 遺構精査状況 (ST273 竪穴建物)

なかあらい 中洗2遺跡

遺跡番号	382-198
調査回数	第1次
所在地	山形県東置賜郡川西町大字時田地内
北緯・東経	37度58分36秒・140度4分2秒
調査委託者	山形県置賜総合支庁建設部道路計画課
起因事業	道路改築事業 国道287号米沢川西バイパス
調査面積	2,100㎡
受託期間	令和5年4月3日～令和6年3月29日
現地調査	令和5年6月1日～9月22日
調査担当者	齋藤健（現場責任者）・高桑登・小林圭一・志鎌久悦・小幡桃花
調査協力	川西町教育委員会
遺跡種別	集落跡
時代	古墳時代、奈良・平安時代
遺構	溝・竪穴住居・掘立柱建物・土坑・柱穴
遺物	縄文土器・石器・土師器・須恵器・陶磁器（文化財認定箱数：30箱）



遺跡位置図（S = 1:50,000）

調査の概要

中洗2遺跡は、JR米坂線中郡駅の北約800mに位置し、事業実施に先立ち新規に発見された遺跡である。

今回の調査で、遺構として竪穴住居が5棟、掘立柱建物が3棟、溝が4本などが発見された。調査区を東西に横切る細いSD12溝だけが江戸時代のもので、残りは古墳時代後期のものとみられる。

竪穴住居跡は、圃場整備により激しく削平されており、床面のみや貼り床の一部のみ残存というものばかりであ

った。しかし、ST1竪穴住居は、1辺が8mほどある大型の竪穴住居であり、周囲に周溝が巡らされていた。カマドの痕跡もあり、出土する遺物から、6世紀ごろの古墳時代後期の時期であると考えられる。他の竪穴住居からも、同時代の遺物片が出土しており、ほぼ同時期に存在していたとみられる。

また、調査区外に広がる半円形のSD9溝は周溝と考えられるが、内部に住居や埋葬施設などの遺構は確認できなかった。その周溝内からは、まとめて古墳時代後期の甕や壺などの土師器が出土し、ST1竪穴住居と同時期に存在したとみられる。

掘立柱建物が3棟検出された。1棟はST6竪穴住居と重複しており、一部の柱穴が竪穴住居の床を剥がして発見されたことから、竪穴住居よりは古いとみられる。

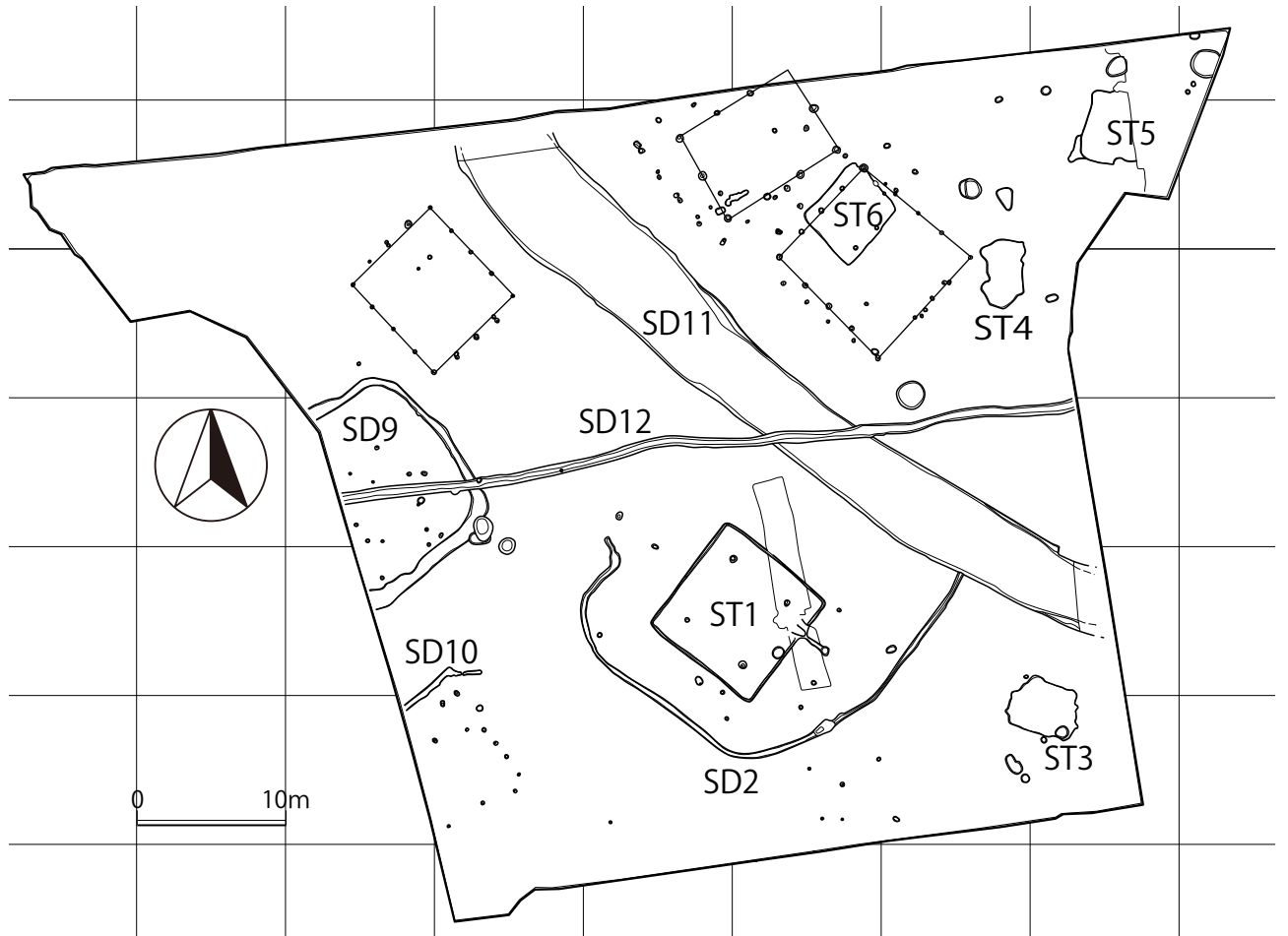
南東から北西へ調査区を横断する幅6m、深さ1mほどのSD11大型溝がある。壁面をほぼ垂直に掘り下げ、溝床面はほぼ平坦になっている。底からは同じく古墳時代後期の遺物が中心に出土した。ST1竪穴住居に伴う周溝を削平していることから、ST1竪穴住居よりは新しいと考えられる。この溝は調査区外に伸びており、正確な規模や性格は不明である。

まとめ

今回の発掘調査で、中洗2遺跡が古墳時代後期の集落跡であることが明らかになった。当遺跡の約1.5km北には、ほぼ同時期の太夫小屋2遺跡がある他、約6km北には古墳時代中期から後期を中心とした下小松古墳群があり、古墳時代の遺跡が比較的多い地域であり、

中洗2遺跡との関係が注目される。

また、周溝を伴う大型の竪穴住居や大型の溝など、通常の集落とは一線を画する遺構が検出されたことが注目される。特に、古墳時代後期の周溝を伴う竪穴住居は、県内や近県では類例を確認できない。



遺構配置図 (1:500)



写真1 調査区全景



写真2 ST1 竪穴住居跡と周溝の完掘状況

新庄城二の丸跡

遺跡番号 205-129
調査回数 第1次
所在地 山形県新庄市堀端町4番地
北緯・東経 38度 76分 71秒・140度 29分 59秒
調査委託者 新庄市
起因事業 新庄市公立保育所整備
調査面積 1,800㎡
受託期間 令和5年4月1日～令和6年3月31日
現地調査 令和5年5月15日～11月14日
調査担当者 菅原哲文（現場責任者）・齊藤主税
調査協力 新庄ふるさと歴史センター
遺跡種別 城館跡
時代 近世
遺構 建物跡・土坑・溝跡・焼土遺構・柱穴・ピット・落ち込み遺構
遺物 陶磁器・瓦・金属製品・石製品（文化財認定箱数：390箱）

調査の概要

新庄城は新庄盆地の中央に位置し、^{さすのがわ}首指野川と中の川・戸前川の間の扇状地に立地する。元和8年（1622年）に新庄藩の初代藩主となった戸沢政盛により築城され、寛永2年（1625年）に城が完成したと伝えられる。現在、本丸部分を中心に最上公園となっている。

調査は新庄城二の丸跡内の保育所建設予定地になる1,800㎡について実施した。調査区は、北側から1、2、3区を設定した（図2）。遺構面は3面確認された。第1面は廃城後の明治以降に整地された近現代の遺構面である。下の第2面は戊辰戦争時に火災に遭った幕末の遺構面、さらに下の第3面は築城後に二の丸が整備されていった面で、米蔵が設けられる以前の時期と考えられる。

遺構と遺物

第1面では、ここに建てられていた新庄北高校の校舎のコンクリート基礎や根石が検出された。近現代の瓦や学校に関連する物、下面の江戸時代の遺物も出土した。

第2面の遺構として、焼土遺構、溝跡、礎石、柱穴、土坑、瓦廃棄遺構などが検出された（写真1・2・4～7・図3）。焼土遺構は戊辰戦争の火災に由来するもので、覆土に炭化材や炭化米を含む。SX84焼土遺構は強く焼けた面が広がっていた（写真1）。1区では江戸時



図1 遺跡位置図（S = 1:50,000）

代の建物跡の礎石や柱穴が検出された（写真2）。大型の礎石は4ヶ所確認された。直径が50cmを超え、やや扁平な自然石や方形の割石を用いている（写真5）。いずれも外面に焼けた痕跡が残る。礎石は、掘り方を掘り土を入れ整地した上に据えられていた。長軸約50cmの礎石が間隔約1mで並ぶ礎石群も確認された（写真4）。周囲に焼面が広がり、建物に由来する炭化材が散在する。またSX75（写真6）などの瓦が大量に出土する廃棄場が3ヶ所確認された（図3青色部分）。

第3面で確認された遺構であるが、3区東側には南

北に延びる溝状の遺構や、土坑、柱穴などが検出された（写真9）。また、その西側にはSX100、SX217 落ち込み遺構が確認され（写真3）、整地し埋め立てられた事が判明した。調査区西側にも、北側のSX260、南側のSX120 整地層を検出し、トレンチを入れ深さを確認した所、瓦が密に入り固く整地された状況が確認され、深い所では約80～90cmに達した。築城当初は湿地的な地形であった場所を、大量の瓦と土砂を入れて整地した事が明らかとなった（写真8）。

遺物であるが、中世の遺物も僅かながら出土した。鎌倉時代と考えられる中国産の青磁碗、室町時代末から安土桃山時代にかけての須恵器系陶器甕、瀬戸・美濃産の天目茶碗、灰釉小皿、中国産の青花などがある。江戸時代の陶磁器は、肥前産がほとんどを占める。唐津焼は、小皿、碗、播鉢、鉢、大皿などが出土している。写真10は、第3面と整地層中から出土した磁器で、波佐見焼の染付皿、青磁瓶、伊万里焼の青磁皿、染付鉢などがある。17世紀後半を中心とする年代で、武家屋敷などから出土するランクが高い物である。

最も多く出土した遺物は江戸時代の瓦で、平瓦と丸瓦が中心である。写真11は、軒丸瓦である。新庄藩主戸沢家の家紋、「丸に九曜」文が入る。その他、鬼瓦や鯨瓦も出土した。鯨瓦は緻密な鱗状の文様を施した体部やヒレの一部と思われる部分がある。隅檜や主要な門に葺かれたと考えられ、不要となった瓦はこの場所にまとめて廃棄された事が判明した。その他、かわらけ、焼塩壺や、金属製品として釘、鉄砲の鉛玉、貨幣（一分金・寛永通宝）などが、石製品として砥石や硯が出土している。



写真1 3区SX84 焼土遺構の調査（南より）

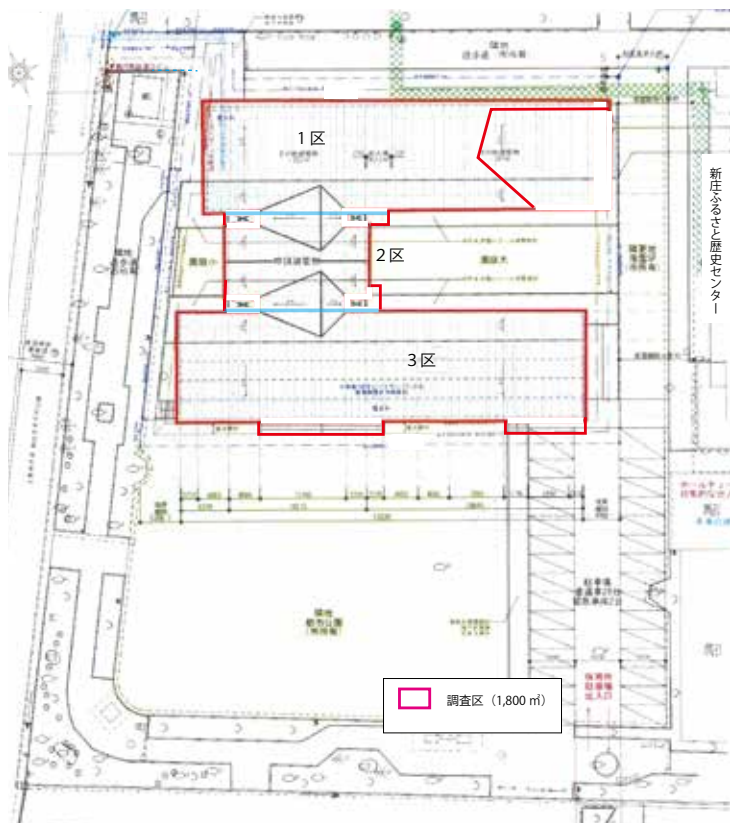


図2 調査概要図（S = 1:1,000）

まとめ

新庄城二の丸跡の発掘調査では3面の遺構面が確認され、第2面では幕末の戊辰戦争で火災に遭い焼失した遺構面が確認され、米蔵に該当すると思われる礎石も検出された。その下の第3面は、築城後に二の丸内が屋敷地として使われていたが、その後17世紀後半以降に大規模に整地され埋め立てられた様相が明らかになった。また江戸時代を中心とする多くの遺物が出土し、新庄城下での当時の生活や流通の様子を明らかにする事ができる豊富な資料が得られた。



写真2 1区第2面の遺構検出状況（北より）

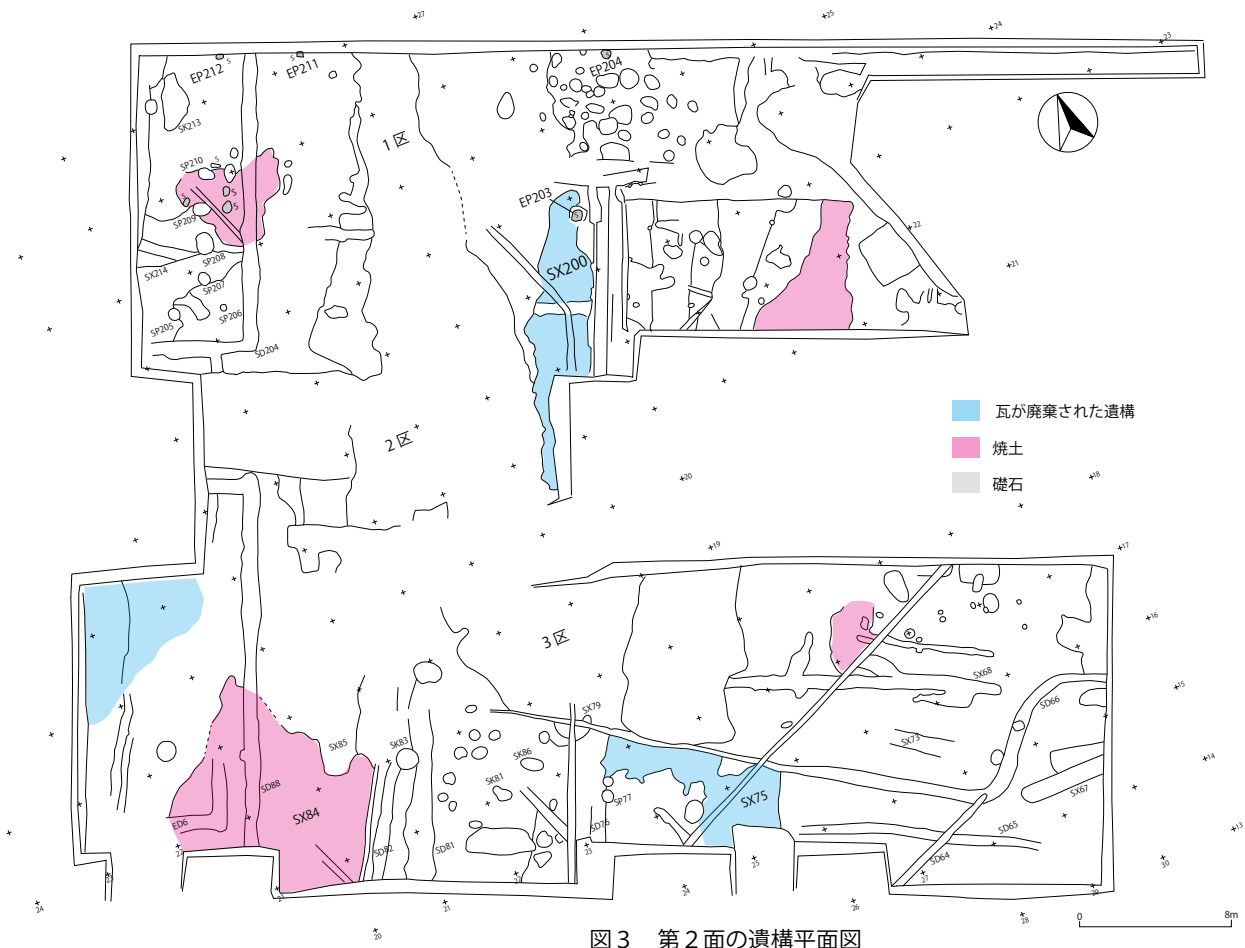


図3 第2面の遺構平面図



写真3 第3面調査区全景(北より)



写真4 1区礎石群検出状況（北東より）



写真5 1区礎石（EP204）検出状況（南より）



写真6 3区SX75瓦廃棄遺構（東より）



写真7 3区SX75瓦出土状況



写真8 1区4トレンチの整地層断面（東から）



写真9 3区東側の遺構（東から）



写真10 江戸時代の伊万里焼・波佐見焼（第3面出土）



写真11 軒丸瓦

中野目Ⅱ遺跡

遺跡番号 201-135	現地調査 平成30年5月21日～11月5日
所在地 山形県山形市大字中野目	調査担当者 植松暁彦・氏家信行・小幡桃花
調査委託者 国土交通省東北地方整備局 山形河川国道事務所	遺跡種別 集落跡
起回事業 最上川上流河川改修事業（須川地区）	時代 古墳・奈良・平安・近世
受託期間 令和5年4月1日～令和6年3月31日	

作業工程表		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
作業項目	記録類整理													
	遺物洗浄	完了												
	注記	完了												
	接合・復元			完了										
	実測													
	拓本													
	トレース													
	写真撮影													
	編集・レイアウト													
	原稿執筆													
	遺物・記録類収納													
	印刷・製本													



記録類整理



復元



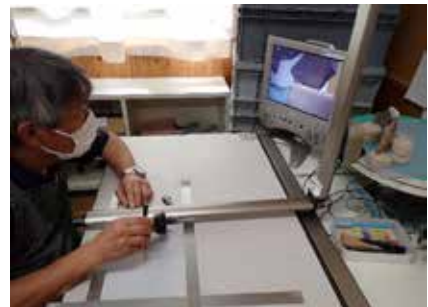
接合・復元



実測



実測



実測



実測



実測



理化学分析

水林下遺跡（第1～3次）

遺跡番号 461-078	現地調査 令和2年6月30日～11月27日(第1次)
所在地 山形県飽海郡遊佐町吹浦字水林下	令和3年6月15日～11月30日(第2次)
調査委託者 山形県観光文化スポーツ部文化財活用課	令和4年6月7日～9月7日(第3次)
国土交通省酒田河川国道事務所調査第二課	調査担当者 大場正善
起因事業 一般国道7号遊佐象潟道路	遺跡種別 集落跡
受託期間 令和5年4月1日～令和6年3月31日	時代 旧石器・縄文・奈良・平安・中世・近世

作業工程表		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
作業項目	記録類整理	完了												
	遺物洗浄													
	注記				完了									
	接合・復元	完了												
	実測													
	拓本													
	トレース													
	写真撮影													
	編集・レイアウト													
	原稿執筆													
	遺物・記録類収納													
	印刷・製本													



接合



微細遺物の抽出



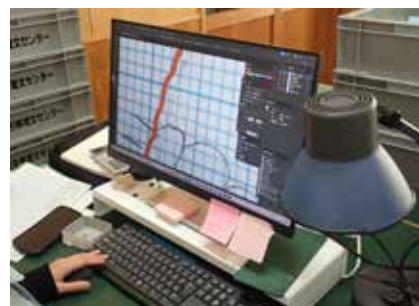
微細遺物の計測と入力



実測



拓本



トレース



理化学分析試料の採取



調査指導



資料比較検討

鶴ヶ岡城跡（第4次）

遺跡番号 203-044

調査担当者 草野潤平・水戸部秀樹・志鎌久悦

所在地 山形県鶴岡市馬場町地内

遺跡種別 城館跡

調査委託者 庄内総合支庁建設部道路計画課

時代 近世

起回事業 街路整備業（防災・安全交付金）

受託期間 令和5年4月1日～令和6年3月31日

現地調査 令和4年5月26日～10月31日

作業工程表		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
作業項目	記録類整理	[進捗バー]												
	遺物洗浄	[進捗バー]												
	注記	完了												
	接合・復元	完了												
	実測	[進捗バー]												
	拓本	[進捗バー]												
	トレース	[進捗バー]												
	写真撮影	[進捗バー]												
	編集・レイアウト	[進捗バー]												
	原稿執筆	[進捗バー]												
	遺物・記録類収納	[進捗バー]												
	印刷・製本	[進捗バー]												



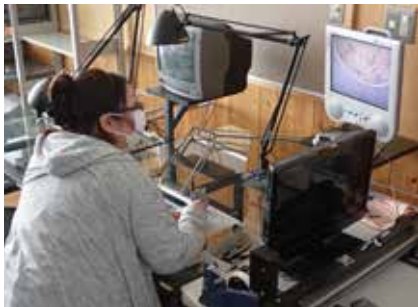
写真整理・台帳作成



土橋部材洗浄



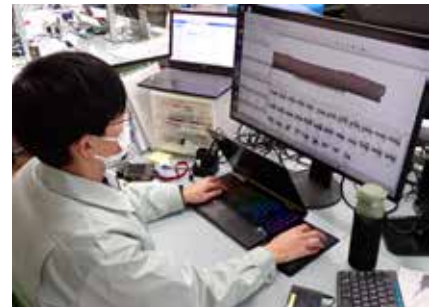
陶器・瓦の拓本



陶磁器実測



土橋部材実測



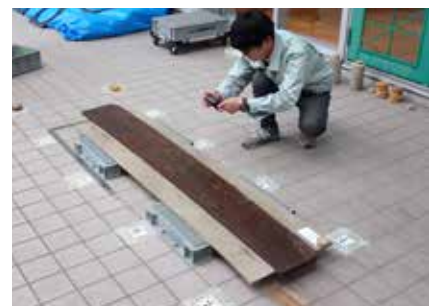
土橋部材の3次元写真計測



デジタルトレース



木製品写真撮影



3次元計測用写真撮影

2. 普及啓発業務

(1) 受託事業

① 出前授業

	実施日	学校(団体)名	人数
1	5月16日	第六小学校(山形市)	67
2	5月19日	松山小学校(酒田市)	27
3	5月26日	蔵王第一小学校(山形市)	63
4	6月1日	第一小学校(飯豊町)	33
5	6月7日	醍醐小学校(寒河江市)	16
6	6月8日	南部小学校(米沢市)	72
7	6月9日	東郷小学校(東根市)	16
8	6月12日	東小学校(山形市)	64
9	6月13日	第八小学校(山形市)	73
10	6月15日	本郷東小学校(大江町)	9
11	6月19日	千歳小学校(山形市)	52
12	6月22日	第十小学校(山形市)	60
13	6月27日	干布小学校(天童市)	16
14	6月28日	広幡小学校(米沢市)	10
15	7月5日	愛宕小学校(米沢市)	47
16	7月6日	琢成小学校(酒田市)	26
17	8月31日	黄金小学校(鶴岡市)	17

(5年度実績 17ヶ所開催 668名)



② 発掘調査速報会

	実施日	会場	人数
1	3月3日	山形国際交流プラザ ビッグウイング	83



③ 遺跡・史跡パンフレット作成

やまがたの遺跡・史跡めぐり Vol.3 (A3版2つ折り 両面印刷)

5,000部

④ 市町村巡回展示会

	実施日	会場	人数
1	7月27日～8月29日	芭蕉・清風歴史資料館(尾花沢市)	629
2	9月27日～10月22日	エコミュージアムセンター創遊館(朝日町)	70
3	11月14日～1月14日	南陽市立結城豊太郎記念館(南陽市)	392

(5年度実績 1,091名)



芭蕉・清風歴史資料館
8月20日ギャラリートーク



エコミュージアムセンター創遊館
10月1日ギャラリートーク



南陽市立結城豊太郎記念館
12月16日ギャラリートーク

⑤ 体験学習会

	実施日	事業名	開催場所	人数
1	7月31日	べに花かほく探検隊(河北町縄文体験)	河北町サハトベに花	5
2	9月2日	遺跡発掘調査体験	川西町中洗2遺跡	24
3	11月18日	考古学お仕事体験	山形県埋蔵文化財センター	37

(5年度実績 66名)

発掘調査体験



整理作業体験



⑥ 遺跡体感ツアーリズム

実施日	事業名	開催地	人数
10月15日	遺跡体感ツアーリズム in 天童市舞鶴山	天童市天童古城跡	12

(5年度実績 12名)



⑦ SNS 情報発信

X (旧 Twitter) により山形県埋蔵文化財センターの普及啓発活動やイベント等の案内を発信
 フォロワー数 1,103

⑧ 出土品貸出等

ア. 出土品貸出

No.	貸出先	借用目的	貸出期間	資料名	数量
1	東根市教育委員会	東の杜 (歴史資料館) 展示のため	4月1日～6年3月31日	小田島城跡	7
2	寒河江市教育委員会	史跡慈恩寺旧境内ガイダンス交流拠点施設「慈恩寺テラス」展示のため	4月1日～6年3月31日	上の寺遺跡	11
3	舟形町教育委員会	舟形町歴史民俗資料館及び縄文の女神まつり展示のため	4月1日～6年3月31日	西ノ前遺跡	64
4	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	常設展示のため	4月1日～6年3月31日	荒川2遺跡 ほか5遺跡	54
5	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	「赤ちゃん手形をつくろう」イベント展示のため	4月28日～5月7日	西海淵遺跡	1
6	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	令和5年度特別テーマ展「高瀬山の考古学」展示のため	5月24日～9月10日	高瀬山遺跡	310
7	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	令和5年度特別テーマ展「高瀬山の考古学」展示のため	6月13日～7月12日	高瀬山遺跡	24
8	上市市立南小学校	6学年社会科学習の資料として使用のため	6月26日～7月7日	宮の前遺跡 ほか2遺跡	6
9	山形市立明治小学校	社会科学習の資料として使用のため	6月30日～7月21日	渋江遺跡 ほか2遺跡	39
10	仙台市縄文の森広場	令和5年度夏のコーナー展示のため	7月21日～10月24日	羽黒神社西遺跡	24
11	舟形町教育委員会	縄文の女神まつり展示のため	8月1日～11月30日	かっぱ遺跡 ほか6遺跡	52
12	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	第31回企画展示のため	8月10日～12月15日	西ノ前遺跡	1
13	長井市古代の丘資料館	令和5年度企画展示のため	8月17日～11月16日	空沢遺跡 ほか2遺跡	23

No.	貸出先	借用目的	貸出期間	資料名	数量
14	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	第31回企画展示のため	8月18日～9月15日	お花山古墳群ほか2遺跡	9
15	寒河江市教育委員会	寒河江市埋蔵文化財フェアに展示のため	8月28日～9月12日	高瀬山遺跡	460
16	大郷郷土研究会	大郷地区文化祭展示のため	11月2日～11月7日	今塚遺跡 馬洗場B遺跡	27
17	仙台市富沢遺跡保存館	第105回企画展「旧石器×ハンター！！」展示のため	12月12日～6年3月31日	太郎水野2遺跡 清水西遺跡	52

イ. 資料掲載許可

No.	許可先	借用目的	資料名	数量
1	寒河江市立寒河江中部小学校	6学年社会科の授業で使用するため	高瀬山遺跡	5
2	株式会社吉川弘文館	刊行物「疫病と古代国家」(仮)に掲載のため	上高田遺跡	1
3	大安場史跡公園	企画展解説パネル及びパンフレットに掲載のため	板橋2遺跡	2
4	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	特別テーマ展「高瀬山の考古学Ⅱ」の展示パネルに掲載のため	高瀬山遺跡	37
5	鶴岡市教育委員会	調査区オルソ画像を鶴岡公園内に整備する説明板に使用するため	鶴ヶ岡城跡	1
6	仙台市富沢遺跡保存館	仙台市縄文の森広場 夏のコーナー展でのパネル展示のため	羽黒神社西遺跡	12
7	株式会社ニューサイエンス社	「考古調査ハンドブック23 環状列石」掲載のため	小林遺跡	1
8	寒河江市教育委員会	寒河江市埋蔵文化財フェア「高瀬山の考古学Ⅰ」展示のため	高瀬山遺跡	44
9	河北町企画財政課	刊行物「未来へつなぐ河北のあゆみ」掲載のため	不動木遺跡・下楨遺跡	7
10	長井市古代の丘資料館	企画展パンフレットに掲載のため	空沢遺跡	4
11	個人(山形県)	飽海地域史研究会報告プレゼンテーションにおける画像作成のため	山海窯跡群ほか3遺跡	25
12	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	企画展「山形県の指定文化財ー考古資料ー」展示パネル・チラシ掲載のため	お花山古墳群ほか5遺跡	139
13	株式会社朝倉書店	書籍「石の歴史・文化辞典」掲載のため	小林遺跡	1
14	朝日町教育委員会	町民向けに実施する歴史講座資料へ掲載のため	沼向遺跡ほか2遺跡	3
15	株式会社ジャパン通信情報センター	「文化財発掘調査情報」掲載のため	中洗2遺跡	1
16	株式会社敬文舎	書籍「縄文を訪ねる」(仮)掲載のため	西ノ前遺跡	1

ウ. 資料調査

No.	来所者	期日	対象遺跡
1	東北中世考古学会 会員	4月22日	城南一丁目遺跡・大楯遺跡・新溜窯跡
2	白石市生涯学習課 職員	4月26日	大楯遺跡
3	東北学院大学 教授	6月15日	羽黒神社西遺跡
4	仙台市縄文の森広場 職員	6月22日	羽黒神社西遺跡
5	(公財) 千葉市教育振興財団 職員	7月13日	生石2遺跡ほか5遺跡
6	河北町企画財政課 職員	8月1日	下楨遺跡・熊野台遺跡
7	京都大学大学院 院生	9月1日	板橋2遺跡
8	愛知学院大学 教授	10月2日	月山沢遺跡・弓張平遺跡・月ノ木B遺跡
9	元仙台市教育委員会 職員	10月12日	生石2遺跡・宮の前遺跡
10	秀明大学教育研究所 教授	10月12日	作野遺跡
11	常陸大宮市教育委員会 職員	10月16日	宮の前遺跡
12	北海道大学大学院 院生	10月23日 ～25日	渡戸遺跡・高瀬山遺跡
13	仙台市富沢遺跡保存館 職員	10月26日	清水西遺跡・太郎水野2遺跡
14	縄文の里・朝日 学芸員	11月9日	下叶水遺跡
15	東京都立大学 教員	11月27日 ～28日	清水西遺跡
16	東北大学大学院 院生	11月28日 ～29日	壇山古窯跡群
17	名取市教育委員会 職員	11月29日	今塚遺跡
18	新潟県観光文化スポーツ部文化課 職員	11月30日	向河原遺跡・馳上遺跡・元立北遺跡・八反遺跡
19	(公財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団 職員	12月20日 ～21日	西谷地遺跡・山田遺跡

(2) その他

① 調査説明会・調査成果一般公開

No.	市町村	遺跡名	公開期間	遺跡種別	見学者数
1	新庄市	新庄城二の丸跡 (1回目)	8月19日	城館跡	53
2	川西町	中洗2遺跡	9月2日	集落跡	19
3	新庄市	新庄城二の丸跡 (2回目)	11月3日	城館跡	26

② 来所者

No.	来所者	期日	人数	内容
1	個人（村上市）	4月5日	1	図書閲覧
2	個人（青森市）	4月11日	1	施設見学
3	福島県文化財センター白河館	5月9日	2	施設見学
4	うきたむ風土記の丘考古資料館	5月26日	2	施設利用（写真スタジオ・写真機材）
5	山形盲学校生徒	5月31日	2	校外学習
6	うきたむ風土記の丘考古資料館	6月6日	2	施設利用（写真スタジオ・写真機材）
7	米沢市・酒田市文化財担当職員	6月6日 ～7日	2	遺物鑑定
8	米沢市・酒田市文化財担当職員	6月7日	2	遺物鑑定
9	山形聾学校児童	6月13日	1	校外学習
10	個人（広島市）	6月15日	3	施設見学
11	山形大学 学生	7月3日 31日	1	インターンシップ〈山形城三の丸跡〉
12	上山市立南中学校 生徒	7月4日 ～6日	3	キャリアスタートウィーク
13	個人（新潟市）	7月5日	1	施設見学
14	上山市内中学校理科担当教諭	8月2日	13	施設見学
15	山形大学 学生	8月21日～ 9月6日	1	インターンシップ〈山形城三の丸跡〉
16	兵庫県まちづくり技術センター 職員	8月30日	2	施設利用（事例調査）
17	山形大学 学生	9月1日	2	インターンシップ〈整理事業見学〉
18	新庄神室産業高等学校 生徒	9月7日	28	遺跡見学〈新庄城二の丸跡〉
19	奈良大学 教授	9月7日	1	施設利用（出土品見学）
20	弘前大学 教授	9月13日	1	遺跡見学〈新庄城二の丸跡〉
21	新庄南高等学校金山校 生徒	9月22日	13	遺跡見学〈新庄城二の丸跡〉
22	新庄市立新庄南中学校 生徒	9月27日	60	遺跡見学〈新庄城二の丸跡〉
23	大江町教育委員会 職員	10月12日	1	遺物鑑定
24	弘前大学 教授	10月13日	1	新庄城二の丸跡土層剥ぎ取り
25	北村山高等学校 教諭	10月20日	10	遺跡見学〈新庄城二の丸跡〉
26	新庄市立新庄南中学校 生徒	10月23日	60	遺跡見学〈新庄城二の丸跡〉（2回目）
27	個人（横浜市）	10月24日	1	施設見学
28	真室川町立真室川中学校 生徒	10月26日	41	遺跡見学〈新庄城二の丸跡〉
29	高崎市教育委員会 職員	11月13日	1	施設利用（出土品見学）
30	高島町教育委員会 職員	11月16日	1	赤外線スキャン

No.	来所者	期日	人数	内容
31	個人（宝塚市）	11月17日	1	施設見学
32	個人（新潟市）	12月5日	2	施設利用（出土品撮影）
33	米沢市教育委員会 職員	12月6日	2	施設利用（写真スタジオ・写真機材）
34	大江町教育委員会 職員	12月26日	2	遺物鑑定
35	寒河江市教育委員会 職員	1月16日	1	遺物鑑定
36	大石田町教育委員会 職員	1月18日 ～22日	2	施設利用（写真スタジオ・写真機材）
37	朝日町教育委員会 職員	1月19日	1	遺物鑑定
38	個人（佐倉市）	2月8日	2	施設見学
39	酒田市文化財担当 職員	2月14日	1	遺物鑑定
40	東北歴史博物館 職員	2月14日	3	資料調査
41	高島町教育委員会 職員	2月21日	2	遺物鑑定
42	個人（米沢市）	2月22日	1	第1回ふるさと考古学講座一般聴講
43	山形盲学校児童	2月27日	1	校外学習
44	個人（山辺町）	2月29日	1	図書利用
45	個人（栃木県・多賀城市）	3月1日	2	第2回ふるさと考古学講座一般聴講
46	個人（山形市・米沢市）	3月8日	2	第3回ふるさと考古学講座一般聴講

③ 職員派遣等

No.	依頼者名	派遣場所	派遣職員	期日	内容
1	飽海地域史研究会	酒田市総合文化センター	植松暁彦	4月15日 8月19日	「酒田市の縄文時代」 「遊佐戦国時代の経塚と遺跡」
2	舟形町教育委員会	舟形町中央公民館	齊藤主税	4月26日 5月29日 3月19日	舟形町文化財保護委員会及び歴史民俗資料館運営委員会
3	朝日町教育委員会	豊龍館跡	大場正善	5月25日 6月8日	遺構検出・完掘状況写真撮影（ドローン）
4	酒田市教育委員会	酒田市総合文化センター	植松暁彦	5月22日 9月1日	酒田市文化財保護審議委員会
5	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	大場正善	5月27日 11月3日	石器作りの技術指導
6	国立歴史民俗博物館	宇都宮大学	植松暁彦	6月3日	歴史文化資料NW事業・歴博拠点研究会
7	古代城柵官衙検討会	東北歴史博物館	植松暁彦	6月23日 11月24日	世話人会
8	山形地域史研究協議会	東根市職業訓練センター	高桑 登	7月2日	八反遺跡の発掘調査と成果について
9	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	植松暁彦 渡辺和行	7月2日 7月9日	特別テーマ展関連講座「高瀬山の考古学Ⅱ」
10	舟形町教育委員会	板橋多目的集会所	齊藤主税	7月19日	薬師如来の文化財調査

No.	依頼者名	派遣場所	派遣職員	期日	内容
11	東京都立大学	(公財)北海道埋蔵文化財センター	大場正善	7月24日 25日	日本列島後期旧石器時代前半期も石器使用・木質資源の組織的加工を示す痕跡の研究
12	(公財)福島県文化振興財団	福島県文化財センター 白河館	大場正善	7月29日	石器製作ワークショップ
13	山形県	村山総合支庁 中山町中央公民館	高桑弘美	8月31日 11月16日	山形県文化財保護審議会
14	大江町教育委員会	元屋敷遺跡	高桑 登	9月5日	元屋敷遺跡検出遺構についての指導
15	大江町教育委員会	大江町中央公民館	高桑 登	9月20日	史跡左沢楯山城跡保存整備検討委員会
16	(公財)日本測量調査技術協会	文化庁京都庁舎	水戸部秀樹	9月21日 11月28日 1月30日 3月7日	発掘調査のイノベーションによる新たな埋蔵文化財保護システムの構築に関する調査研究事業 実務者委員会
17	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	小林圭一 菅原哲文 草野潤平 植松暁彦 高桑 登	9月24日 10月1日 10月8日	企画展「山形県内の指定文化財―考古資料―」の講師
18	奈良文化財研究所	奈良文化財研究所	水戸部秀樹	10月2日 3日	文化財担当者専門研修「文化財三次元計測課程」の講師
19	山形県立博物館	山形県立博物館	須賀井新人 後藤枝里子 梅津里枝	11月3日	文化の日無料開館イベントの講師
20	大郷郷土研究会	大郷コミュニティセンター	須賀井新人	11月5日	地区文化祭における今塚遺跡・馬洗場B遺跡出土遺物の解説
21	山形県観光文化スポーツ部文化財活用課	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	高桑弘美	11月9日 2月6日	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館運営協議会
22	ハケ岳旧石器研究グループ	明治大学	大場正善	11月11日 12日	研究発表：細石刃の作り方
23	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	高桑弘美	11月12日	企画展「山形県内の指定文化財―考古資料―」記念講演
24	鈴川郷土研究会	鈴川コミュニティセンター	植松暁彦	11月23日	山形市北部の古墳時代史
25	米沢市教育委員会	戸塚山古墳群	草野潤平	12月5日	現地調査指導
26	鹿児島大学埋蔵文化財調査センター	宮崎県埋蔵文化財センター、鹿児島大学	大場正善	12月5日 ～10日	公開講座「石器づくりの実験考古学」の講師
27	長井市史編纂委員会	長井市役所	菅原哲文	1月16日	市史拡大編集委員会
28	米沢市教育委員会	米沢市埋蔵文化財資料室	菅原哲文	1月24日 2月4日	台ノ上遺跡出土遺物鑑定
29	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	齋藤 健	2月10日	中洗2遺跡の調査報告
30	国立歴史民俗博物館	一橋大学	植松暁彦	2月17日 18日	全国史料ネットワーク研究交流集会
31	北村山地域史研究会	東根市職業訓練センター	植松暁彦	3月24日	尾花沢市鶴子原の内A遺跡・中原遺跡の発掘調査報告

④ 啓発物品等貸出

No.	貸出先	借用目的	貸出期間	物品名
1	大石田町立北小学校	総合的な学習において、縄文時代の生活を体験するため	10月7日～10月14日	縄文原体セット・体験用石器 火起こしセット
2	福島市	「土偶フォーラム」にて展示	10月26日～11月22日	「縄文の女神」大型模型

⑤ 出版物

ア. 一般公開資料

書名	発行年月日
新庄城二の丸跡調査現地説明会資料	2023年8月19日
	2023年11月3日
中洗2遺跡調査現地説明会資料	2023年9月2日

イ. 調査報告書

シリーズNo.	書名	発行年月日
247	鶴ヶ岡城跡第3次発掘調査報告書	2024年3月31日

ウ. その他

資料名	発行年月日
令和5年度年報	2024年5月7日
研究紀要 第16号	2024年3月31日

⑥ ホームページ

主な項目と内容は以下の通りです。

- ・センター概要 センターの紹介や、情報公開制度に基づいた、センター情報の提供
- ・発掘調査遺跡一覧 発掘調査遺跡や整理事業中の遺跡の紹介
- ・発掘調査速報 調査期間中、遺跡ごとの調査状況を毎週更新して紹介
- ・イベント情報 埋蔵文化財センター考古学講座、調査説明会、各種イベント情報の提供
- ・センター刊行物案内 調査報告書、発掘調査説明会資料、研究紀要などの刊行物の紹介
- ・埋文やまがた web版広報誌「埋文やまがた」の紹介、およびバックナンバーの閲覧とダウンロード
- ・発掘調査遺跡地図 埋蔵文化財センターがこれまで発掘調査し報告書を刊行した遺跡の紹介

(3) 研修等

全国埋蔵文化財法人連絡協議会事業

ア 総会

期 日 令和5年6月15日～16日
会 場 和歌山県和歌山市（和歌山城ホール）
派遣職員 専務理事 菅原靖男、事務局長 高桑弘美、企画主任 須賀井新人

イ ブロック会議

期 日 令和5年10月26日～27日
会 場 北海道江別市（北海道立埋蔵文化財センター）
派遣職員 調整専門員 高桑登、総務主査 水戸部秀樹

ウ 研修会

期 日 令和5年11月1日～2日
会 場 茨城県水戸市（ホテルレイクビュー水戸）
派遣職員 専務理事 菅原靖男、主任調査研究員 草野潤平

埋蔵文化財担当者専門研修への派遣

ア 建築遺構調査課程

期 日 令和5年6月18日～23日
会 場 奈良文化財研究所
派遣職員 主任調査研究員 草野潤平

イ 遺跡地図・GIS 課程

期 日 令和5年7月23日～28日
会 場 奈良文化財研究所
派遣職員 調整専門員 高桑登

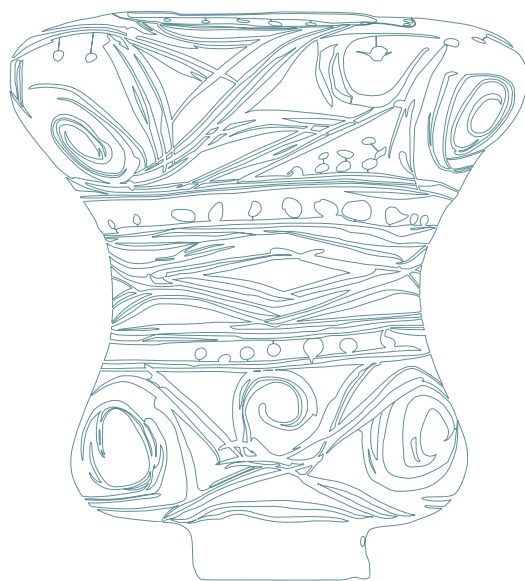
職員研修

ア ふるさと考古学講座

期 日 令和5年2月22日・3月1日・3月8日
会 場 山形県埋蔵文化財センター
内 容 第1回『縄文晩期の香炉型土器の型式変化』（小林圭一）
第2回『3D写真計測の利用について』（水戸部秀樹）
第3回『初めての石器の見方と種類、作り方』（大場正善）

(4) 情報処理

収蔵図書データベース 新収蔵図書 1,409冊のデータ入力実施（File Maker Pro 使用）



ISSN 1341 – 397X

年 報

令和4年度

2023年5月8日 発行

発 行 公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター
〒999-3246
山形県上山市中山字壁屋敷5608番地
TEL 023-672-5301 (代)



Yamagata Archaeology Center

当センターの記章としているこの
図柄は、

Yamagata

Archaeology

Center

の3つの頭文字をあしらったもので
す。特にYは、国宝「縄文の女神」
をイメージしています。